

聖木曜日 (ヨハネ 13:1-15)

互いに足を洗い合い、イエスの食卓に着く



聖木曜日、イエスはイスカリオテのユダにも和解への道を示しました。「皆が清いわけではない」と明言されても、足を洗ってくださり、誰も取り残されないように心を砕かれたのです。

イエスは「先生と弟子」の関係を超えて、和解のために僕の仕事を引き受けました。模範を示して、イエスが再び食事の席に着かれたことに目を留めましょう。これは過越の食事ですが、先生ができるのだから、弟子がそれをできないはずがない。そのことを確かめる席に着いたという意味もあるでしょう。身を低くすれば、できない和解はないのです。

この晩さんの席に着いた十二人の弟子たちは、心ではさまざまな思いが渦巻いていました。イエスが王座に着いたら右と左に座りたいと考える弟子がいました。財布を預かっていて中身をごまかしている弟子もいました。だれがいちばん偉いだろうかと議論したりもしていました。

ペトロはその中で最も素朴な弟子だったかも知れませんが。「あなたのためなら命を捨てます」と言えました。実際そうなる運命でしたが、もちろん自分の力ではありません。いよいよの場面ではイエスを「知らない」と三度否認します。それでも、ペトロの正直さは特別でした。

ペトロはイエスから足を洗ってもらうとき、

「主よ、足だけでなく、手も頭も」と求めました。何かを表しているのではないのでしょうか。「手」は人間の働きを、「頭」は人間の考えを、それぞれ表しているのではないのでしょうか。働きのすべて、考えのすべてをイエスに清めてもらおう。食卓に着く準備、一つのテーブルに着く準備がここに示されているのだと思います。

イエスの食卓に、名誉を求めている人、財布の中身をごまかす人、どこまでも素朴な人、さまざまな人が食卓に着きました。イエスが用意してくださる食卓には、どんな人でも席に着くことができます。ただ、食卓に着くすべての人が、互いに相手よりも低くなる、互いに仕え合う、その準備が必要です。

今日ここに集まった私たちすべてが、イエスの食卓に着くことができます。準備として、互いに相手よりも低くなることを引き受ける覚悟があるのでしょうか。「あの人よりはマシだ」と考える人がいないのでしょうか。その人の足を洗う、その人に仕える覚悟があるのでしょうか。

こうしている今も、ウクライナとロシアは停戦交渉をしていることでしょう。イエスがおられるテーブルで一つになって、交渉をまとめてほしいと切に願います。イエスがおられるテーブルであれば、どんな事情があっても席について話し合えると信じます。聖木曜日、主の晩さんの食卓を囲みながら、世界中の人々が一日も早く平穏な日々を取り戻せるよう、心を合わせて祈りましょう。

聖金曜日(ヨハネ 18:1-19:42)